

クビアカツヤカミキリ 防除対策マニュアル (改訂 第2版)

早期発見、早期防除にご協力を！

■ 知る

■ 見つける

■ 対策する



和歌山県

2024年9月 (県内被害状況のみ更新2024年12月末)

クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル

目 次

[知る]

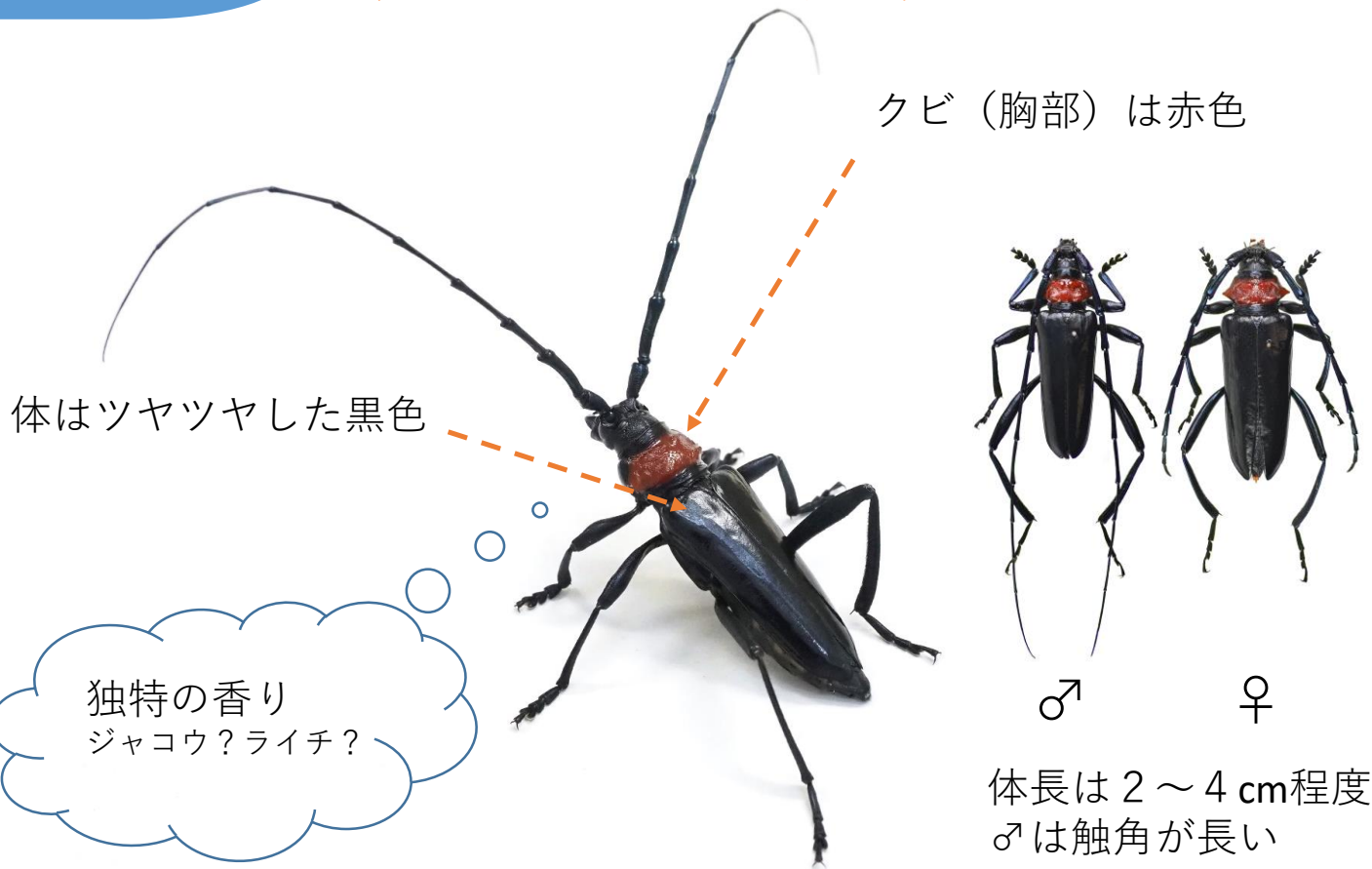
クビアカツヤカミキリとは	1
国内及び県内での発生状況	2
生活環と被害	3
産卵場所	4
被害樹内部の様子	5

[見つける]

フラスの見つけ方	6
間違しやすいフラスとの見分け方	7

[対策する]

防除対策の種類と時期	8
成虫の防除対策	9
幼虫の防除対策	12
ネット被覆による成虫飛散防止と捕殺	16



● 特徴

- ・ 幼虫がバラ科サクラ属（サクラ、モモ、スモモ、ウメ等）の樹木内部を食害し枯死させる。
- ・ 産卵数が非常に多く飼育下では約300個、中には1000個以上産卵した例もある。
- ・ 飛翔力が高く、成虫の移動距離は年間2～3 kmとされる。
- ・ 被害は急速に拡大・激甚化する。
- ・ 車両への付着により人為的に長距離移動する可能性もある。
（和歌山県内で初めて確認された成虫は軽トラック上に静止していた）

[注意]

クビアカツヤカミキリは**特定外来生物**に指定されているため、**飼育や生きたままの運搬・保管・野に放つことなどが禁止**されています。**成虫や幼虫は見つけ次第、捕殺**してください。

2018年1月、環境省は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき、クビアカツヤカミキリを「生態系や農林水産業などに被害を及ぼす外来生物」（特定外来生物）に指定しました。

国内及び県内での発生状況

● 国内（2024年9月末現在）

2011年に埼玉県で初めて成虫を発見

2012年に愛知県で被害が確認されて以降、全国に拡大

2024年には、全国14都府県で被害を確認

被害が確認された年と地域

2012年 愛知県

2013年 埼玉県

2015年 群馬県、東京都、大阪府、徳島県

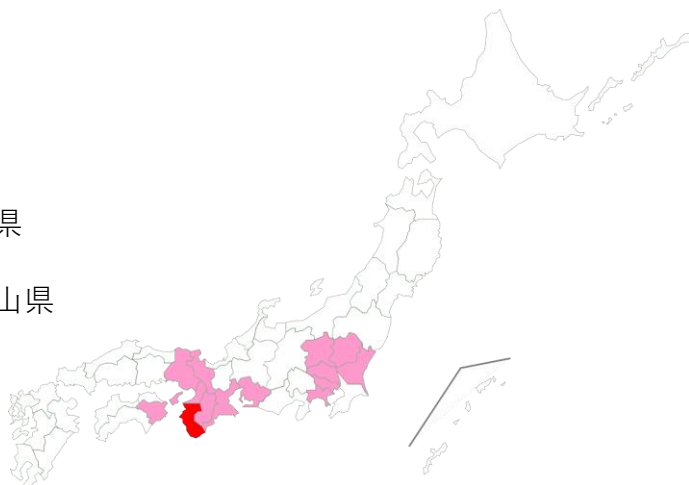
2017年 栃木県

2019年 奈良県、三重県、茨城県、和歌山県

2021年 神奈川県

2022年 兵庫県

2024年 京都府



● 県内（2024年9月末現在）

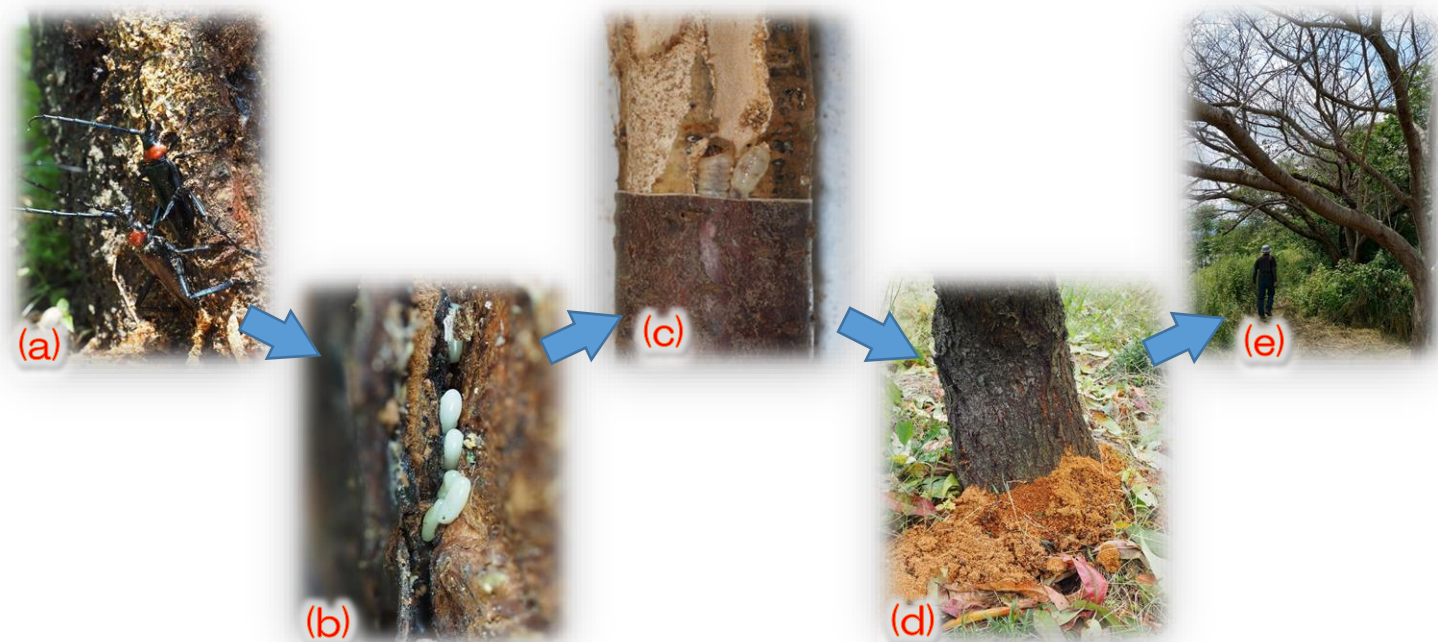
- ・ 2017年 7 月にかつらぎ町で雄成虫 1 頭を確認
- ・ 2019年11月にかつらぎ町のももで最初の被害を確認以降、紀北地域のもも、スモモ、ウメで被害が急激に拡大
- ・ 2021年 7 月には和歌山市で県内最初のサクラでの被害を確認以降、紀北地域のもも、スモモ、ウメ、サクラで被害が拡大
- ・ 2023年 5 月に御坊市でサクラ、ウメでの被害を確認（紀中、紀南地域で初）以降、紀中地域においても、もも、ウメ、サクラで被害が拡大

令和6年12月末現在 累積被害本数

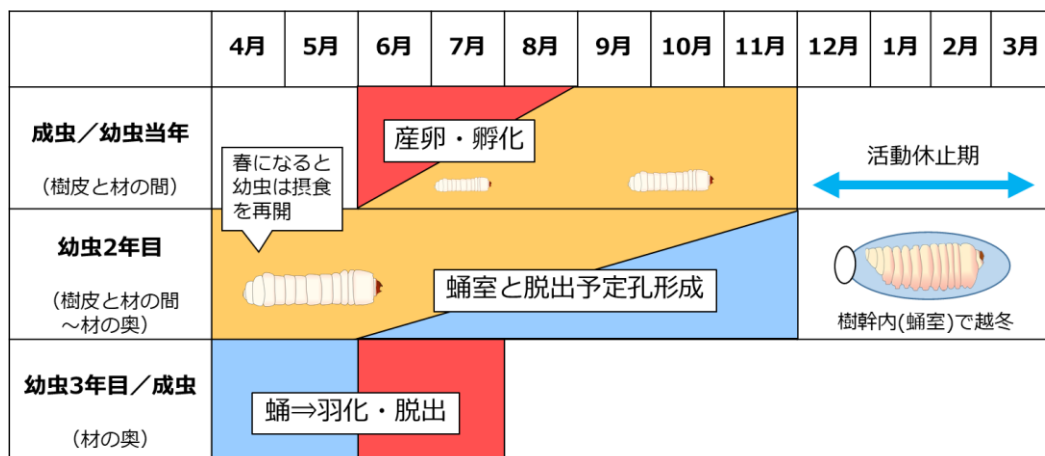
市町村名	農地 (スモモ、もも、ウメ等)	農地以外 (サクラ、ハナモモ、ウメ等)
和歌山市	63	70
海南市	3	1
岩出市	64	8
紀の川市	461	6
橋本市	1,673	258
かつらぎ町	4,203	52
九度山町	28	1
高野町	—	1
湯浅町	13	—
有田川町	—	3
広川町	6	—
御坊市	43	19
由良町	6	4
日高川町	178	8
美浜町	—	3

(被害本数：本)





●産卵から2年で羽化する場合の生活環



成虫：● 幼虫：● フラス排出あり ● フラス排出なし(蛹室形成後～)

生活環 図提供：(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所

- (a) 成虫は5月下旬～8月頃に発生する。
- (b) 雌成虫は樹皮の割れ目や隙間、着生植物の下に産卵する(p4参照)。
卵は約10日後にふ化する。
- (c) ふ化した幼虫は樹木内部に穿孔し内樹皮から辺材部を食害する(p5参照)。
- (d) 幼虫は樹木内で1～3年かけて成長し、「フラス」と呼ばれる木くずと糞が混じったものを大量に排出する。フラスの形状はミンチ状、粉状など様々ある(p6参照)。
- (e) 甚大な被害を受けた樹は枯死に至る。

- 産卵数は、滑らかな樹皮よりも**粗い樹皮**に多い。
また、コケなどの**着生植物が繁茂した部分**に多い。

※室内試験結果

滑らかな樹皮



産卵数

少

粗い樹皮



多

樹皮の隙間に産卵



着生植物が少ない樹皮

少

産卵数

着生植物が繁茂した樹皮



多

コケの中に産卵



地衣類の下に産卵



横断面

脱出予定孔

(羽化後の成虫が
脱出するための穴)

- 蛹化する前に完成させる
- 外樹被のみ残す

蛹室

(蛹化するための部屋)

フラスが詰まっている

内樹皮から辺材部を
好んで食害



脱出孔は楕円形

縦断面

1 樹から200頭以上の
幼虫が確認された事例もある

終齢幼虫は秋までに蛹室を作
成した後、コルク状の物質で
蛹室にフタをし、翌年羽化す
るまで半年以上この室内に
閉じこもる

フタは非常に頑丈であり、
蛹室完成後には防除が難しい

まずは園地を見回り、フラスを探す

特に、フラスの排出を確認しやすい3月下旬～11月の見回りが重要

※フラスとは、幼虫が木の外に排出する「木くずとフンが混ざったもの」



若齢幼虫のフラス



表皮の亀裂から排出されたフラス



枝の上部から排出したフラス



ミンチ状のフラス



粉状のフラス

ポイント



株元だけでなく、
地上から高さ3m、
直径5cm程度の枝
まで注意する



主枝直下や足元のフラスに
注意すると見つけやすい！

クビアカツヤカミキリは、ミンチ状や粉状のフラスを排出することが特徴であるが、見分けが難しい場合は、ほぐしてみると判別しやすい

クビアカツヤカミキリ



- ☑ 明るい色のフラスが排出される
- ☑ 削りとられたような薄い木くず片を多く含む

ゴマダラカミキリ



- ☑ 繊維状の木くずを多く含む

ウスバカミキリ



- ☑ 繊維状の木くずを多く含む

コスカシバ



- ☑ 顆粒状の糞が多い

単位:mm

アリ類



- ☑ アリ類はパウダー状の木くずを多く含む

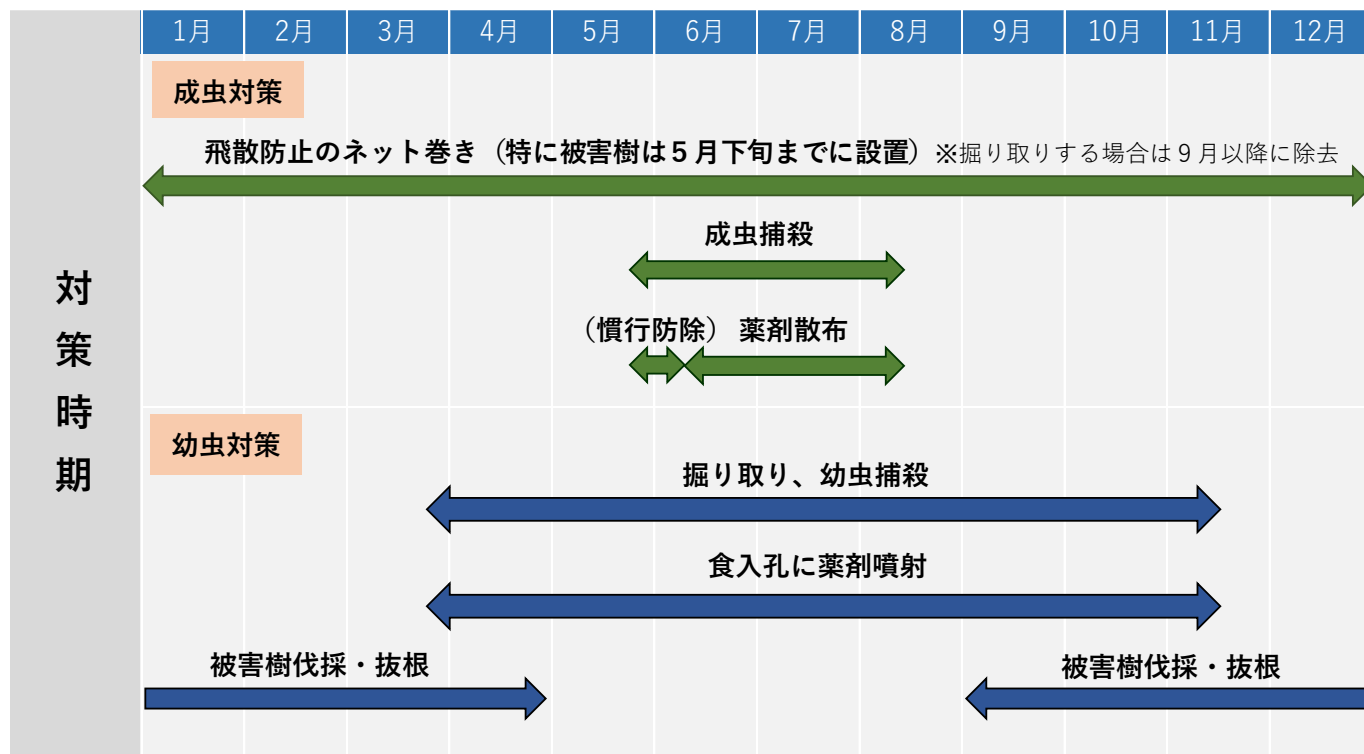
一つの方法で完全な防除は難しいので、
複数の方法を組合せて被害を抑制する

● 対策種類

対策		対象	内容	関連ページ
農薬使用	散布	成虫	樹に薬剤散布	p9～11
	スプレー剤の噴射	幼虫	フラス排出孔に薬剤を噴射	p13～14
	樹幹注入（サクラ類のみ）	幼虫	地際付近の幹にドリルで穴を一定間隔であけ、その穴から農薬を注入	p13～14
農薬以外	掘り取り・捕殺	成虫・幼虫	定期的な見回りによる直接駆除	p9(成虫),p12(幼虫)
	被害樹の伐採・抜根	幼虫	被害樹を伐倒し粉碎または焼却	p15
	ネット被覆	成虫	ネット被覆による成虫の脱出防止	p16

● 対策時期

各種防除対策は効果的な時期に実施する



成虫は見つけ次第、捕殺する

- ・成虫は5月下旬～8月に発生する
- ・昼行性で気温の高い日中は樹上を活発に動き回る
- ・羽化後すぐに交尾が可能なため、

見つけたら必ずその場で捕殺する

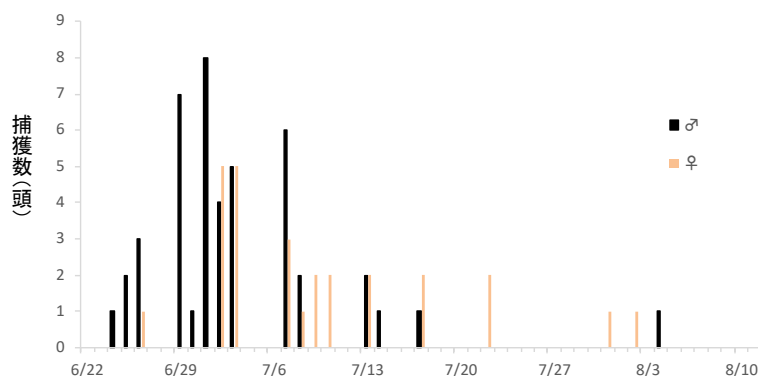
[注意]

特定外来生物に指定されているため、
生きたまま持ち運ぶことは禁止されている



薬剤を散布する

- ・成虫の密度を抑制し、産卵数を減少させる
- ・葉や果実だけでなく幹や枝にも薬液がかかるように散布する
- ・サクラ類では地上に露出した根にも薬液がかかるように散布する
- ・成虫発生数の多い6月中旬～8月上旬に登録薬剤を散布する
(特に6月下旬～7月下旬が重要で、収穫後であっても散布する)



和歌山県内スモモ園における脱出防止ネット内の成虫捕獲数の推移



注意: SSは下側のノズルを開ける

(令和6年9月末現在)

RAC コード	農薬の名称	適用作物	使用時期	使用回数	希釈倍数	使用方法	実用性の 判定 ¹⁾	接触毒性 (死虫率) ^{2),3),4)}	
1A	オリオン水和剤40	もも	成虫発生期 但し、 収穫14日前まで	2回以内	1,000倍	散布	○～△ ⁵⁾	○～△ ²⁾	
		すもも	成虫発生期 但し、 収穫7日前まで	3回以内					
		うめ							
1B	スミチオン乳剤	もも	成虫発生初期 但し、 収穫3日前まで	6回以内	1,000倍	散布	—	—	
		うめ	成虫発生初期 但し、 収穫14日前まで	2回以内					
3A	アグロスリン水和剤	もも	収穫前日まで	5回以内	1,000倍	散布	—	△ ³⁾ 産卵抑制 効果は◎	
		すもも		2回以内					
4A	モスピラン顆粒水溶剤	もも	収穫前日まで	3回以内	2,000倍	散布	◎	◎ ⁴⁾	
		すもも							
		うめ							
4A	ダントツ水溶剤	もも	収穫7日前まで	3回以内	2,000倍	散布	◎	○ ⁴⁾	
		すもも	収穫3日前まで						
		うめ	収穫前日まで						
4A	ベニカ水溶剤	もも	収穫7日前まで	3回以内	2,000倍	散布	◎	○ ⁴⁾	
		うめ	収穫前日まで						
4A	アクタラ顆粒水溶剤	もも	収穫前日まで	3回以内	2,000倍	散布	◎～○	○ ²⁾	
		すもも	収穫7日前まで	2回以内					
		うめ							
21A	ハチハチフロアブル	もも	成虫発生期 但し、 収穫前日まで	2回以内	1,000倍	散布	◎～△	△ ³⁾	
22B	アクセルフロアブル	もも	収穫前日まで	4回以内（樹幹散 布は2回以内、散 布は2回以内）	1,000倍	散布	—	△ ²⁾	
		すもも			100 ～200倍			樹幹散布	—
		もも		3回以内		1,000倍			散布
		すもも							
		うめ							
28	テッパン液剤	もも	収穫前日まで	2回以内	2,000倍	散布	—	△ ⁴⁾	
		すもも							
		うめ							
—	バイオリサ・カミキリ	もも	成虫発生初期	—	1樹当たり1本	地際に近い主 幹の分枝部分 等に架ける。	—	—	
		すもも							
		うめ							

1) クビアカツヤカミキリ特別連絡試験による実用性の判定（舟木, 2019）

2) 薬剤散布枝（うめ）を風乾後、散布4日後に成虫を放虫し、4日後に死虫率を調査（うめ研究所）

3) 薬剤散布枝（もも）を風乾後、散布4日後（アグロスリン水和剤は3日後）に成虫を放虫し、3日後に死虫率を調査（かき・もも研究所）

4) 薬剤散布枝（もも）を風乾後、散布3日後に成虫を放虫し、4日後に死虫率を調査（弘岡・増田, 2022）

※小粒核果類として適用のある薬剤を含む

※スミチオン乳剤は2026年に登録削除予定

5) 効果の指標

効果	実用性の 判定 ¹⁾	接触毒性 (死虫率) ^{2),3),4)}
◎ 高	A	90%以上
○ 中	B,C	50～90%
△ 低	D	50%未満

**[注意] 最新の登録情報は
農薬登録情報検索システムで確認！**



成虫に適用のある薬剤 さくら

(令和6年9月末現在)

RAC コード	農薬の名称	適用作物	使用時期	使用回数	希釈倍数	使用方法
1B	スミチオン乳剤	さくら	成虫発生初期	6回以内	1,000倍	散布
1B	カルホス乳剤		成虫発生初期	6回以内	1,000倍	散布
1A	オリオン水和剤 4 0		成虫発生期	5回以内	1,000倍	散布
4A	ダントツ水溶剤		成虫発生初期	5回以内	2,000倍	散布
4A	マツグリーン液剤 2		成虫発生初期	5回以内	200倍	散布
					20倍	樹幹散布
4A	ベニカ水溶剤		成虫発生初期	5回以内	2,000倍	散布
22B	アクセルフロアブル		成虫発生直前 ～成虫発生期	6回以内	1,000倍	散布
					200倍	主幹から株元に 散布
4A	モスピラン顆粒水溶剤		発生初期	5回以内	2,000倍	散布
22A	トルネードエース D F		成虫発生初期	4回以内	1,000倍	散布
28	ダブルトリガー液剤		発生初期	2回以内	2,000倍	散布
22A	ファイントリム D F		成虫発生初期	4回以内	1,000倍	散布
-	バイオリサ・カミキリ	食用さくら (葉)	成虫発生初期	-	1樹当たり1本	主幹又は主幹の 分枝部分に巻き 付ける。
3A	ベニカカミキリムシエアゾール	樹木類 (さくら)	成虫発生初期	6回以内	-	噴射
3A	ロビンフッド		成虫発生初期	6回以内	-	噴射
4A, UN, 3A, 11, -	ベニカ X ネクストスプレー	さくら	成虫発生初期	6回以内	原液	散布

[注意] 最新の登録情報は [農薬登録情報検索システム](#) で確認！

■ フラスを見つけたら、幼虫を掘り取るか刺殺する

幼虫はフラス排出部分周辺の樹皮を剥いで掘り取るか、針金（ピアノ線）を差し込み、刺殺する。

● 必要な道具

貫通ドライバー、ハンマー、針金（ピアノ線）、ブラシなど



①フラス排出場所を見つけ、
ブラシでフラスを取り除く

②貫通ドライバーとハンマーを用いて
表皮をはずす



③食入孔に針金やピアノ線を差し込んで
幼虫を刺殺する

④念のため薬剤を食入孔に噴射する(P13参照)

⑤フラスの再排出を確認し易くするため、
株元のフラスを掃除する

⑥期間を空けて見回り、
フラスの再排出に注意する！

■ スプレー剤の噴射

スプレー剤の使用方法



(1)食入孔を探す

- ・樹幹や根から排出するフラスをブラシなどで除いて探す
- ・見つからない場合はフラスが落ちている場所の上部をこまめに探す



(2)フラスを掻き出す

- ・食入孔にフラスが詰まっていると薬液が幼虫まで届かないため、千枚通しなどで掻き出す



(3)薬液を注入する

- ・食入孔にノズルを差し込み、噴射する
- ・薬液を食入孔に充満させるため、食入孔から薬液が少しあふれるまで噴射する

■ 薬剤の樹幹注入（さくらに限る！）

- ・株元付近にドリルで穴を開けて薬液を注入する
- ・材の枯死・腐朽した部分、空洞に注入しないよう注意する
- ・全頭を殺虫できない可能性があるため、処理後も継続して観察



(1)木の大きさを測定

- ・根元の樹幹部直径等をメジャーで測定し、使用薬液量（や薬液注入穴の数）を決める



(2)地際に薬剤注入穴を作成する

- ・樹幹の地際に電動ドリルで薬液量に応じた数の注入穴を、樹体の斜め下向きに開ける
- ・腐朽した部位は薬液の浸透が悪いので避ける



(3)注入穴に薬液を注入しフタをする

- ・注入穴に規定量の薬液を注入する
- ・薬液が樹体内に浸透したことを確認し、注入穴を傷口癒合剤等でフタをする

■ フラス排出孔に噴射（注入）する薬剤

果樹

(令和6年9月末現在)

RAC コード	農薬の名称	適用作物	使用時期	希釈倍数・ 使用量	使用方法	本剤の 使用回数	総使用回数	実用性の 判定 ¹⁾
3A	ロビンフッド ベニカカミキリムシ エアゾール ^{※1}	もも	収穫前日まで	—	樹幹・樹枝の食入孔に ノズルを差し込み噴射	5回以内	10回以内（但し、噴射は5 回以内、散布は5回以内）	—
		すもも					7回以内（但し、噴射は5回 以内、散布は2回以内）	
		うめ					8回以内（但し、噴射は5回 以内、散布は3回以内）	
—	バイオセーフ	もも うめ	幼虫発生期	2,500万頭 (約10g/2.5L)	木屑排出孔を中心に 薬液が滴るまで樹幹注入	—	—	○

※1：カミキリムシ類に適用のある薬剤

1)p10参照

(令和6年9月末現在)

さくら

RAC コード	農薬の名称	適用作物	使用時期	希釈倍数・ 使用量	使用方法	本剤の 使用回数	総使用回数
3A	園芸用キンチョールE	さくら	発生初期	—	食入部にノズルを差し込み、 薬剤が食入部から流出するま で噴射する。	6回以内	6回以内
3A	ロビンフッド ベニカカミキリムシエアゾール	樹木類	—	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズル を差し込み噴射	6回以内	6回以内
4A	マツグリーン液剤2	さくら	発生初期	50倍	食入孔に注入	1回以内	5回以内
22B	アクセルフロアブル	さくら	—	100倍	木屑排出孔を中心に薬液が滴 るまで樹幹注入	6回以内	6回以内
-	バイオセーフ	さくら	幼虫発生期	2,500万頭 (約10g/2.5L)	木屑排出孔を中心に薬液が滴 るまで樹幹注入	—	—

■ 樹幹に注入する薬剤（さくらに限る！）

(令和6年9月末現在)

RAC コード	農薬の名称	適用作物	使用時期	使用量	使用方法	本剤の 使用回数	総使用回数
4A	アトラック液剤	さくら	幼虫発生前～幼虫発生期	樹幹部の胸高直径による	樹幹注入	3回以内	3回以内
4A	ウッドスター		新葉展開後～落葉前まで	注入部の直径による	樹幹注入	3回以内	5回以内
6	リバイブ		発生前～発生期	樹幹部の胸高直径による	樹幹注入	1回	1回

[注意] 最新の登録情報は [農薬登録情報検索システム](#) で確認！

成虫の発生の恐れのない9月以降から4月下旬までに実施する

● 被害の拡散防止

- ・伐採・抜根は確実に幼虫を駆除できるため、被害拡散防止効果が最も高い
- ・健全樹への被害拡散防止にもなる

幼虫が根まで侵入していた事例がある



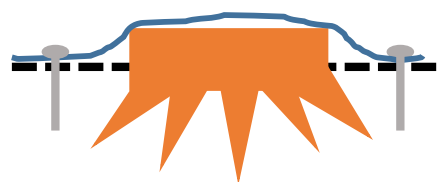
抜根できない場合は、伐採後、根をシート等で覆う

[重要]

株元からの成虫離脱防止

- ・切り株を目合い4mm以下のネットで覆い、さらに、ブルーシートや防草シートで覆う

3年間継続する



[注意]

- 伐採樹は枯れても成虫が脱出するので放置せず、4月下旬までに粉碎(10mm以下)、または焼却処分する
- 焼却処分等園外へ持ち出す場合は、逸出防止が必須
- 速やかな処分が難しい場合は、園内で回収しやすい場所に短期保管(3月下旬まで)とし、目合い4mmのネットで2重に被覆しさらにビニールで覆う
- 園外へ持ち出すのが難しい場合は、くん蒸処理する方法もある



根 覆 い

くん蒸剤 (令和6年9月末現在)

RAC コード	農薬の名称	作物名称	くん蒸時期	希釈倍数・使用量	使用方法	本剤の 使用回数	実用性の 判定 ¹⁾
8F	NCS ²⁾	うめ、もも、すもも、 さくら(伐倒木)	14日以上	被覆内容積1m ³ 当り 原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、 直ちにビニール等で密閉し、くん蒸する。	1回	◎
8F	キルパー40	うめ、もも、すもも、 さくら(伐倒木、枯損木)	14日以上	被覆内容積1m ³ 当り 原液750～1,500ml	加害された伐倒木を集積したものまたは 枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにビニ ールシート等で密閉し所定期間くん蒸する。	1回	◎

1) p10効果の指標参照

2) NCSは2026年に登録失効予定

[注意] 最新の登録情報は[農薬登録情報検索システム](#)で確認！



伐採・抜根が難しいときは・・・

成虫の飛散防止のために2重にネットを巻く

● 必要な道具

ネット（目合い4mm程度）、ひも（マイカー線など）、結束バンド、ペグ



主枝の分岐部(股の部分)からネットを巻く
主枝をひも等で縛る



ネットのつなぎ目は、しっかりと縫い付ける
(巻き込みと結束バンド)



樹幹部分でネットに余裕をもたせ2重に巻く



根元のネットはペグ等で地面に固定する

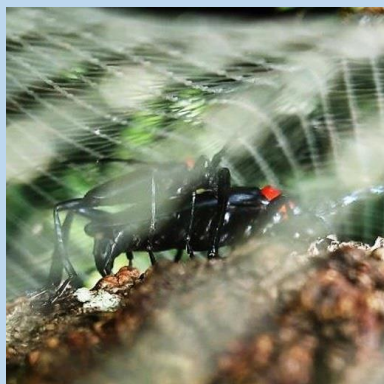
[重要]

「ネットを巻いたら終了」ではない！

定期的に見回り、ネット内の成虫を捕殺してください！



ネットをかみ切ろうとする



ネット内で交尾する

放置すると・・・

- ① ネットをかみ切り脱出
- ② ネット内での交尾・産卵

早期発見、早期対策(駆除)が重要！

園地を見回り、クビアカツヤカミキリの成虫や
フラスを発見したら必ず、最寄りの振興局、ＪＡ、
市町村まで連絡をお願いします。

● 通報先：県関係機関

地域	通報先			
	振興局	農地： 農業水産振興課	森林： 林務課	その他（学校関係除く）： 衛生環境課
和歌山市、海南市、 海草郡	海草	073-441-3382	073-441-3366	073-483-8825
紀の川市、岩出市	那賀	0736-61-0025	0736-61-0015	0736-61-0022
橋本市、伊都郡	伊都	0736-33-4930	0736-33-4910	0736-42-5443
有田市、有田郡	有田	0737-64-1273	0737-64-1263	0737-64-1293
御坊市、日高郡	日高	0738-24-2930	0738-24-2912	0738-24-3617
田辺市、西牟婁郡	西牟婁	0739-26-7941	0739-26-7911	0739-26-7934
新宮市、東牟婁郡	東牟婁	0735-21-9632	0735-21-9612	0735-21-9631
東牟婁郡のうち、 古座川町、串本町	—	—	—	串本支所 保健環境課 0735-72-0525

和歌山県 農林水産部 農業生産局 鳥獣害対策課

TEL：073-441-2905 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

和歌山県 果樹試験場 かき・もも研究所

TEL：0736-73-2274 〒649-6531 紀の川市粉河3336

和歌山県 果樹試験場 うめ研究所

TEL：0739-74-3780 〒645-0021 日高郡みなべ町東本庄

和歌山県 林業試験場

TEL：0739-47-2468 〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1